



ひなどり

園だより 1月号
令和3年1月8日
新潟市立新津第三幼稚園

今年も、記憶に残る活動をたっぷりします

園長 間嶋 哲

あけましておめでとうございます。2021年、令和3年が始まりました。

昨年12月のはじめ、来年度入園する子どもたちと初めて会いました。さすがにコロナ禍の中なので、抱っこなどのスキンシップを行うことは控えましたが、とても残念なことでした。

今の年長児、あやめ組の子どもたちが、初めて園に足を踏み入れたときのことを思い出しました。ちょうど4年前の私にとって、初めての「2歳児」との出会いだったわけです。その時の印象は、「とにかく体を動かすのが大好きで、活発な子どもたちが多いなあ」というものでした。今の年長児とは、その後、彼ら彼女たちが年少組の時に、みんなでお相撲をしました。「はっけようい」という掛け声とともに立ち合いの姿勢を教えると、おしりをすでに床につけている子どもが何人もいて、とても可愛かったのを覚えています。また最後は、みんなで力を合わせて私を押し切り、さすがの私も、あっけなくマットの外に押し出されてしまったことを、今でも覚えています。

ところで皆さんは、小さい頃の記憶として、どのようなものが残っていますか。あるいは、お子さんは、一番小さかった頃の記憶として、どんな記憶を持っているのでしょうか。それらを、親子で互いに話したり聞いたりすると、意外と楽しいひと時になるのではないのでしょうか。

私自身の最も古い記憶は、おそらくまだ言葉も話せなかった頃に、少し機嫌が悪くなったとき、誰かに「あっ、眠くなったんだねえ」と言われたことです。「いや、そうじゃないんだよ」と、心の中で叫んでいた記憶もあるのです。

私が、なぜこんな突拍子もない記憶を持っているかということ、おそらく、この体験を様々な人に話しているからです。記憶を保持していくためには、自分自身が実際に身体で体験したり、スキンシップを伴って一緒に活動したり、自分自身の体験を言葉や絵で表出（アウトプット）したりすることが大切なのです。

新型コロナウイルスの蔓延防止のため、様々に配慮していかなければならないことが続きます。とはいえ、四季折々の行事は、やはり子どもに体験させ記憶にとどめてほしいことです。12月のクリスマス会では、第三小学校から1名のゲストを招きました。1月15日に行う餅つきでは、第三小学校から2名の男性教員を招きます。小学校の先生を、より身近な存在にしていきたいという思いからです。3月19日の修了式では、感染予防を講じながら、園児全員で園歌を歌い、年長児の歌声をお聞かせし「記憶に残る式」としたいと考えています。年中組、年少組各クラスの生活発表会も2月に行います。

私が得意とする(?)スキンシップが、解禁となる日が早く来るとよいのですが…。楽しみは、先にとっておきます。どうぞ、今年もよろしく願いいたします。

